

## 地上天国祭 理事長お話

「地上天国祭」、誠におめでとうございます。  
心地よい風が青葉を揺らす“梅雨晴間”が恋しい季節となりました。

本年も、明主様と強い絆で結ばれた全国の皆さまと共に、極めて意義深き「地上天国祭」を真心込めてお祝いさせていただきましたこと、主神と、主神とご一体であられる明主様に心から感謝申し上げたいと存じます。

本日は、先ず初めに、「地上天国祭」に際し、教主様より「メッセージ」をいただいておりますので拝読させていただきます。

### 世界救世教 ㊦ 之光教団の信徒の皆様へ

皆様、本日は地上天国祭おめでとうございます。

㊦之光教団の皆様には、皆様を取り巻く教団の状況が大きく揺れ動いているにも拘らず、成井理事長を中心に、明主様を真に求め、明主様が指し示された、全く新しい信仰の学びと実践に一途に励んでおられますこと、大変心強く思っております。

そうした皆様と共に、本日の地上天国祭を迎えることができ、誠に嬉しく思っております。

私は今、大阪の地で、いつのめ教区の方々と共に、地上天国祭を執り行わせていただいておりますが、白澤代表を中心とするいつのめ教区の方々も、皆様と同じ思いをもって、全く新しい信仰に向けて、力強く歩み始めました。

いつのめ教区発足に至るまで、㊦之光教団の皆様より多大なるご支援、ご協力をいただきましたこと、私からも、厚く御礼申し上げます。誠にありがとうございました。

私は、今後も、様々な面において、㊦之光教団の皆様といつのめ教区の皆様が手を取り合い、お互いに助け合い、励まし合いながら進んでいかれることを、心より願っております。

いつのめ教区の方々は、本日を期して、明主様のご神名と善言讃詞を変更し、主之光教団の皆様が奏上されるのと同じ、「メシヤの御神」のご神名をもってご参拝をされることとなりました。

このようにして、場所は違えども、共にメシヤの御名に結ばれた存在として、心ひとつに本日のご参拝が許されたことに、私は大きな意義を見出

しております。

明主様は、お歌に、「大救主<sup>メシヤ</sup>の御名は最後の世を救ふ尊き御名なり心せよかし」とお詠みになりました。

私どもは、明主様が「尊き御名なり心せよかし」とおっしゃった尊いメシアの御名を、心から大切にしなければならぬと思います。

メシアの御名にある赦しがあればこそ、私どもは、無条件で、主神のみもとである天国に立ち返ることができ、主神の子供として新しく生まれさせていただくことができます。

私は、この主神のみ旨をお受けし、皆様と共に、これからも、明るく、楽しく、希望をもって前進してまいりたいと思います。

来月7月8日、⑤之光教団本部のご神前にて執り行われる祖霊大祭の折に、皆様にお目にかかれまことを、心より楽しみにしております。

平成30年6月15日

世界救世教教主 岡田 陽一

以上でございます。

教主様は、本日大阪にて3,000名を超える信徒が集い、行われている、⑤之光教団「いづのめ教区」の「地上天国祭」にご出座くださっています。

私ども⑤之光教団からは、仲泊名誉会長が代表して出席されています。

私は、本日の「いづのめ教区」の祭典について、5月1日に発足した「いづのめ教区」の事実上の全国規模での発会式とも言える祭典であると拝察し、⑤之光教団の皆さまと共に心からお慶び申し上げたいと存じます。

教主様には、ご多忙極まりなき折に、私どものために「メッセージ」をくださいましたこと、誠にありがたいことと心から御礼申し上げます。

また、「地上天国祭」を前にした先月4日には、大阪にて「教主様ご巡教信徒大会」を厳粛かつ盛大にお許しいただきました。

教主様には、公務誠に多端の折、また、自称世界救世教「責任役員会」と称する人たちからの傲岸不遜にして執拗な圧力に晒される中、敢然とご出座くださいましたこと、皆さまと共に心より感謝申し上げます。

当日は、関西を中心に、⑤之光教団から約1,100名、いづのめ教団からも約830名、そして、一部東方之光の方も含め約2,000名が教主様のもとに集い、明主様を先頭に、教主様とひとつ心で、主神の全く新しい救いのみ業にお仕えさせていただき熱い心と固い決意に溢れる大会となりました。

そして、①之光教団の中に「いづのめ教区」が設置され、互いに主体性を持ちながら連携・協働して、教主様と共に明主様の真のみ心を求めて進ませていただく新たなステージの始まりの日となりました。

私どもは今、明主様がお示しになった救いが、実は、人類にとって全く新しい救いであることに、教主様のご教導を通して目覚めさせていただきました。

私は、①之光教団に繋がるすべての皆さまと共に、この主神の全く新しい救いのみ業を先ず自らが求めてお受けし、そして、多くの人にお伝えさせていただけますよう、この度の「ご巡教」におけるご教導と、本日賜りました「教主様メッセージ」を心の糧とし、日々の生活の中で積極的に、「祈りの言葉」を中心とした“想念の御用”の実践に向かわせていただきたいと存じます。

先程は、全国の信徒の皆さまを代表して、〇〇布教区〇〇布教所の〇〇さんと、〇〇布教所の〇〇さんが感謝奉告をしてくださいました。ありがとうございました。

〇〇さんは人間の眼には混沌としたように見える現在の教団状況の中、また、〇〇さんをご主人の身に起こった突然の交通事故の中、み教えの神髄をお伝えくださる教主様のお言葉が拠り所となり、心の中心にある確かな光に心を開いていられました。

そして、明主様のみ心が、どんな時も自らのうちに必ず存在していることに心に向け、日常生活において“想念の御用”の実践などに向かわれているお話をしてくださいました。

私どもも、「大光明」のご神体奉斎や、「真善美」配布を力とする「会う、聞く、浄霊」を“想念の御用”の実践の大切な機会とし、私どものうちに生きておられる神様に心を向ける「全く新しい信仰」という、明主様が示された真の救いの道を、ご一緒に希望を持ってひたむきに進ませていただきましょう。

さて、①之光教団では、現在の世界救世教全体の状況につきまして、随時「内報」などを通じてありのまま、詳らかにお伝えしております。

東方之光(MO A)といづのめ教団小林執行部は、依然として自称世界救世教「責任役員会」なる根拠のない組織をもって、教主様ご家族と①之光教団、そして、「いづのめ教区」に関わる人たちに対して、様々な圧力をかけ妨害を仕掛けてきています。

その一環として、彼らは、岡田真明教主補佐に対し、専従者との懇談会におけるご発言が懲戒規程に触れるとの言いがかりをつけ、5月21日付で真明様に懲戒処分を下し、信徒としての籍を剥奪し、職員身分も解雇とし、事実上世界救世教から追放する旨、通知してきました。

世界救世教にとりまして、明主様の血筋を引く事実上の教主継嗣であり、教主様にとりまして唯一の後継者である真明様をこのような形で追放し、彼らはやはりその先に、現在の四代教主様を廃位とし、意の如くなる教主擁立、もしくは、教主制廃止をも画策しているものと思われます。

また、彼らは、㊦之光教団のごく一部の名誉職や布教所長を使い、「聖地直結の会」なるまやかしの組織を立ち上げさせ、今も ㊦ 之光教団の弱体化に躍起になっています。

私は、こうした状況の中で、明主様と強い絆で結ばれた専従者として、信徒として、その明主様が全身全霊をもってお仕えになった主神のみ旨と救いを真にお受けし、宣べ伝えていく世界救世教であり続けなければならないと、より一層強く思わせていただいております。

私は、東方之光(M O A)やいつのめ教団小林執行部の圧力や妨害に適宜対応させていただきただけではなく、彼らの姿が、実は、自らのうちにも存在している姿ではないかと受け止め、先ず自らの心のうちを見つめ、悔い改め、信仰を革正していく営みを、決して疎かにしてはならないと気づかせていただいております。

ですから、私は、先般の「ご巡教」における教主様のお言葉をいただいたものとして、どのような信仰をもって本日の「地上天国祭」に臨ませていただくべきなのかを、この一カ月自らに問いかけてまいりました。

教主様は、「ご巡教」の折、

明主様は、先程申し上げた、メシヤ降誕ご発表の折に、お身体の回復が見られないにも拘らず、この時発せられた第一声は、「ずいぶん若くなってるよ私の方は」というお言葉です。

「ずいぶん若くなってるよ」というお言葉のあとに「私の方は」と付け加えておられるということは、“お前たちの方はどうだい、と、私ども一人ひとりに課せられた問題として、問いかけておられたのではないでしょうか。

そのように思わせていただいたならば、私どもは今、“明主様と共にわたしも若くならせさせていただきました。ありがとうございます、とお返事さ

せていただかなければならないのではないのでしょうか。

私どもは、明主様と共に、若々しく新しい命に甦らせていただいたものとして、天国に立ち返らせていただきましょう。

そして、私どものうちにおられる明主様を先頭に、主神の全く新しい救いのみ業にお仕えさせていただきますでしょう。

と、このように私どもに呼びかけてくださいました。

私は、このご教導を通して、全人類と万物と共に「夜昼転換」や「メシヤ降誕」をお受けになった明主様のみ心が、私ども一人ひとりのうちに燦然と輝いていることを強く意識するに至りました。

そして、この重大な事実に関心をもち、心を真っ直ぐ向けることが、世界救世教の信仰にとって“新しい”という言葉が指し示すものではないかと受け止めさせていただきました。

ですから、私は、本年の「地上天国祭」には、“明主様と共に私も若々しく新しい命に甦らせていただきました”というご奉告をさせていただきますことを心に決めて臨ませていただきました。

昭和6年6月15日に「夜昼転換」の天啓をお受けになった明主様は、その後本教を立教され、闇に覆われた「夜の時代」の終焉と、大光明燦然と輝く「昼の時代」の到来を確信をもって宣言されました。

私は、本教開教後の明主様の数々のご事蹟の中で、昭和25年の「世界救世(メシヤ)教」開教と、昭和29年の「メシヤ降誕」に関わる一連のご事蹟が、人類の救いにとって特に密接に関わりがあるものと受け止めさせていただいております。

私は、明主様が、全人類と万物と共に「夜昼転換」と「メシヤ降誕」をお受けになったみ心をもって、私ども一人ひとりにも、「夜の時代」に終わりを告げ、新しくなりなさいと強く願ってくださっているものと信じております。

ですから、私は、明主様と共に私自身が「夜昼転換」をお受けし、「メシアの御名」に結ばれ、主神の赦しを心の中心にお受けしていたことを、本日皆さまとご一緒に神様にご奉告申し上げたいと思います。

そして、明主様と共にあるメシアの御名にあって、すべてのものと共に天国に立ち返り、すべてを主神に委ねさせていただく“想念の御用”に、今年後半も皆さまと共に積極的に向かわせていただきたいと決意致しております。

このようにして、私どもにとって、“想念の御用”をもって進ませてもら

く「全く新しい信仰」の道が、私ども自身の「夜昼転換」であると信じて、感謝と希望を持って真に新しい出発をさせていただきますよう。

最後に、私どもは、来月8日、聖地・瑞雲郷の㊦之光教団本部ご神前において、教主様にご出座賜り「祖霊大祭」をお迎え致します。

私は、本年の「祖霊大祭」に臨むに際して、すべての先祖の方々にも、明主様と強く固い絆で結ばれ、「夜昼転換」や「メシアの御名」に込められた主神の赦しをお受けしていることをお知らせし、共に天国に立ち返らせていただく祭典とさせていただきますたいと存じます。

私どもは、こうした思いを込めて、真心一杯の感謝慰霊に努め、大祭のご参拝に臨ませていただきますよう。

「地上天国祭」を迎え、皆さまの今年後半のご神業奉仕の上に、弥増すみ恵みと安らぎを賜りますよう祈念し、本日の挨拶とさせていただきます。

ありがとうございました。